

厚岸町海事記念館
企画展「アッケシソウ」

冊　子　版

展示内容

町内のアッケシソウに関する取り組みや、道内各地の自生地の紹介、岡山県浅口市の取り組みについて、パネルや写真で紹介します。



展示期間

2025年６月１４日（土）
～７月１３日（日）
※ 終了しました

場　所

厚岸町海事記念館１階ホール

開館時間

9:00 ～ 17:00
※月曜日または祝日の翌日は休館

入館料

無料

問合せ先

厚岸町海事記念館
TEL/FAX 0153-52-4040
E-mail k-kaiji@akkeshi-town.jp

1. アッケシソウとは

ヒユ科（アカザ科）。高さ 10～30 ㎝の１年草です。全体に多肉質で群生し、塩湿地に生息しています。このような植物を塩性植物と呼びます。

春から夏にかけて茎が成長しはじめ、夏から秋にかけては茎が肥厚して肉厚になり、開花します。秋を迎えると茎が赤く色づくのが特徴的です。

現在、環境省が発表している植物レッドデータブックには、「絶滅危惧Ⅱ類」（絶滅の危険が増大している種）とされています。

厚岸町では、町の名前がついたこのアッケシソウを残そうと様々な取り組みを行っています。

本展示では、町内の取り組みや、道内の自生地、本州で唯一の自生地である岡山県浅口市のアッケシソウについてパネルで紹介します。



町内自生地（金田﨑）のアッケシソウ

2. アッケシソウの名付け親「宮部金吾」

現在使われている種の名称である「アッケシソウ」はどのように名付けられたのでしょうか。その由来は、現在から約 130 年以上前にさかのぼります。

アッケシソウは、明治 24 年（1891 年）に厚岸湖の牡蠣島において、初めて発見されました。

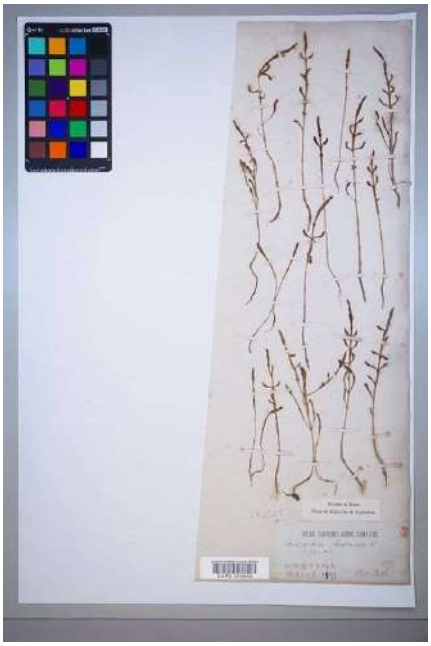
発見者は椙山清利氏で、名付け親は宮部金吾氏です。椙山氏は宮部氏の１年後輩で北海道庁に勤務しており、厚岸でこの植物を発見しました。

宮部氏は、現在の北海道大学の前身である札幌農学校の教授で、初めて見つかった場所である厚岸の名を冠して「アッケシソウ」名付けました。

どのようにアッケシソウが採集され、宮部氏のもとにもたらされたかなどの経緯は不明ですが、牡蠣島やその付近には当時多くの塩湿地の植物が生育しており、のちに国の天然記念物として指定されています。



宮部金吾採取のアッケシソウ



椙山清利採取のアッケシソウ

3. アッケシソウと牧野富太郎

厚岸町で初めて発見されたアッケシソウですが、実は他の場所でもみつかっており、記録が残っています。発見場所は愛媛県新居浜市、発見者は牧野富太郎氏です。

牧野氏は大正元年（1912 年）「植物学雑誌」324 号の中で、アッケシソウについて記事を書いています。

4. 天然記念物になったアッケシソウ

牡蠣島のアッケシソウは、大正 10 年（1922 年）に他の塩性植物 48 種と併せて「厚岸湖牡蠣島植物群落」として、国の天然記念物に指定されました。

その後、地震や地盤沈下等の自然環境の変化に伴い、牡蠣島は水没し植物群落の回復が見込めないことから、平成６年（1994 年）に指定解除となりました。



カキ嶋ヨリ奔渡ヲ臨ム（東宮殿下行啓記念北海道厚岸写真帖）

5. 厚岸町内におけるアッケシソウ栽培の取り組み

当町におけるアッケシソウの人工栽培は、昭和 57 年（1982 年）に、厚岸町郷土館前で開始されました。栽培面積が約 6.5 ㎡と狭いですが、郷土館の敷地ということもあり、雑草駆除や海水散布が頻繁に行えるため、生育も良好に推移し、現在も栽培を行っています。

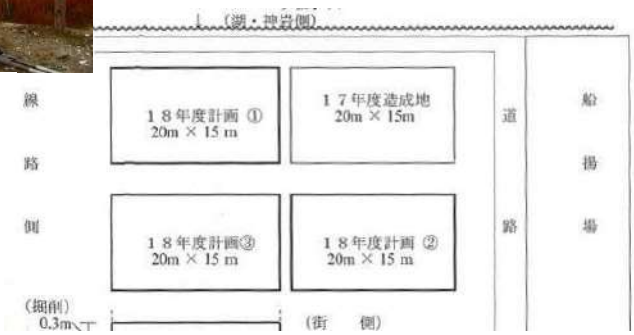
また、平成４年（1992 年）には、チカラコタン地区において栽培地を造成し、栽培を開始しています。造成当初は順調に生育しておりましたが、沢水の流入等の影響により、雑草が繁茂するなど、思わしい結果が得られず、平成 17 年度（2005 年度）をもって栽培を中止しています。

チカラコタンでの栽培終了前から、さらに大規模な栽培地の造成を計画し、場所を港町に選定し、平成 17 年（2005 年）に栽培地を造成しました。栽培地は田の字型の４面とし、うち１面（300 ㎡）を 11 月に掘削、12 月に厚岸漁港（若竹地区）工事の浚渫土を投入、播種（宮園土捨場で採取した種子）を行い、平成 18 年度（2006 年度）から栽培を開始しました。播種を行った１面で発芽・生育がみられたことから、翌年残り３面（300 ㎡×３）の掘削、浚渫土投入を 10 月に、播種を 11 月に行っています。

その後、数年は生育も順調でしたが、海水散布のポンプアップに多大な労力や時間を要するため、海水散布の時間が思うように取れず、雑草が繁茂し、その駆除の実施もしましたが、それも追いつかない状況になってきたこともあり、栽培の継続は困難と判断し、平成 24 年（2012 年）の栽培活動をもって、全面休耕としました。



港町地区のアッケシソウ栽培地



港町地区のアッケシソウ栽培地図面

翌年（平成 25 年（2013 年））からはプランターによる試験栽培を平成 30 年（2018 年）まで実施しました。

そして、令和元年（2020 年）からは新たに栽培地を設けるため、町内で適地を探しました。その結果、過去に栽培を行っていたチカラコタン地区において、新たな人工栽培地として造成をすることに決まりました。翌年には、東京農業大学及び専門企業によって、地質や地下水流・海水の干満等の調査を行い、令和３年度（2021 年度）には、造成工事を完了しました（耕地面積：951 ㎡、全体面積：1,505 ㎡）。造成地は東から１～４面とし、１・３面は現地土、２・４面は山砂を用い、地盤の高さは３・４面が１・２面よりも 15 ㎝高く設計されました。

こうして令和４年（2022 年）からは、チカラコタン地区での人工栽培を開始し、各地区で個体数は異なるものの、例年成果を上げ、現在に至ります。

6. アッケシソウにおける他地域との交流（道内）

北海道におけるアッケシソウの生育地は、網走市（卯原内）が特に有名ですが、その他にも根室市（春国岱）、湧別町（サロマ湖畔鶴沼）などがあります。

平成 30 年（2018 年）の網走市のアッケシソウ群生地視察をきっかけに、東京農業大学の中村教授に、栽培地の場所の選定から造成に係る事前調査、栽培に至るまでご指導・ご協力をいただいております。

また、アッケシソウ栽培地を対象とした調査・研究も行っていただき、令和５年度（2023 年度）には中村教授と間宮氏（当時４年生）による「アッケシソウ調査報告会」を開催しました。





アッケシソウ調査報告会（令和６年２月 28 日）
（左：中村教授、右：間宮氏）

7. アッケシソウにおける他地域との交流（道外）

アッケシソウは当町で初めて発見され、その名がついているという経過があることから、アッケシソウを通じ、他の地域との交流があります。

平成 15 年（2003 年）に「厚岸ふるさと友の会」と当館職員で香川県高松市・宇多津市、愛媛県新居浜市へ視察に行き、交流を図っております。その時訪問した高松市の小学生から平成 17 年（2005 年）にアッケシソウの学習報告が届いております（現在香川県高松市では生育が見られず、愛媛県新居浜市では人工栽培を行っています。）

また令和４年（2022 年）には、本州唯一のアッケシソウ自生地がある岡山県浅口市を、厚岸町議会厚生文教常任委員会が視察に訪れ、それをきっかけに、翌年アッケシソウ自生地の保護に尽力されている浅口市文化財保護委員の星野氏（岡山理科大学名誉教授）、浅口市教育委員会の水田氏に来町いただき、講演会を開催しました。



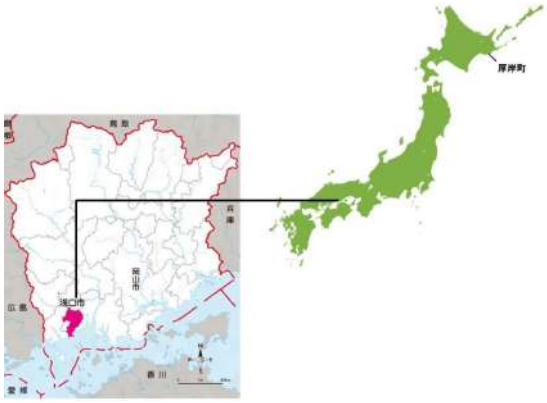

令和５年度講演会「浅口市におけるアッケシソウ保護活動」（令和５年 10 月 15 日）
（左：星野名誉教授、右：水田氏）

8. 岡山県浅口市のアッケシソウ

岡山県浅口市（当時：寄島町）では、平成３年（1991 年）に寄島干拓地においてアッケシソウの生育が確認されていました。その後、長らく詳しく調べられていませんでしたが、平成 15 年（2003 年）にはあらためて群生地が発見され、翌年には寄島町の天然記念物に指定されています。この指定と同時に、有志による「アッケシソウを守る会」が結成され、保護活動が開始されます。

平成 18 年（2006 年）に浅口郡鴨方町・金光町・寄島町の３町が合併し、「浅口市」となると、浅口市の天然記念物に指定されます。

その後、平成 22 年（2010 年）には、群生地の愛称が「寄島アッケシランド」に決まります。また、「晴れの国おかやま景観百選」や、「第 10 回おかやま県民文化大賞」を受賞するなど、「アッケシソウを守る会」の活動が認められ、現在に至り、「本州唯一」の自生地が維持されています。



岡山県浅口市の位置



「寄島アッケシランド」



「寄島アッケシランド」自生地



「寄島アッケシランド」展望デッキ

9. 寄島干拓地（「寄島アッケシランド」）のアッケシソウ

寄島干拓地には、５か所でアッケシソウの群落が発達しています。群落が発見された順に、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地区と名付けられました。

このうちＡ地区は、最も大きなアッケシソウの群落があります。

それぞれの地区のアッケシソウの生育環境として、生育地が海水につかることはほとんどなく、防波堤の地下から湧き出た少量の海水が流れていることが特徴として挙げられます。この海水が湧き出している場所からは、アッケシソウの大きな集団が発達する傾向がみられています。

ただし、生育地への海水の供給量は砂よりも泥土の比率が高く、有機物の体積が多く海水の供給が十分でない場所では、土壌環境が悪化しアッケシソウの生育が困難となっています。

この状況を改善するため、令和４年（2022 年）には、Ａ地区に給水装置を設置した結果、海水が供給され、新たな群落が形成されています。



「寄島アッケシランド」案内図（浅口市 HP より）

10. おわりに

本冊子は、「企画展『アッケシソウ』」と題して、令和７年６月 14 日（土）から７月 13 日（日）まで開催した展示内容をまとめたものとなっています。このような企画展は、これまで厚岸町が取り組んできた内容をあらためて振り返るとともに、道内や道外にもアッケシソウという当町の植物が自生していることを知っていただくために開催しました。

また厚岸町で自生しているアッケシソウは、船でなければ行くことのできない場所にあることから、より身近にアッケシソウを感じることのできるように現在も当町では様々な取り組みを行っています。

この冊子を通して、少しでもアッケシソウに興味を持っていただけると幸いです。もし興味がありましたら、郷土館前やチカラコタン地区で栽培しているアッケシソウもご覧になってみてください。



郷土館前栽培地



チカラコタン地区栽培地